

札幌市下水道事業中期経営プラン（H19～23）進行管理報告書（平成21年度決算版）概要

作成	建設局下水道河川部	資料
提出	平成22年11月17日	下-1-2

◎ 総括

中期経営プランの3年目であります平成21年度は、予定していた事業を着実に実施し、施設の維持管理や運転管理を適正に行った結果、多様化した下水道の役割をしっかりと果たすことができました。一方、財政面におきましては、経済不況の影響などもあり当初の予定よりも下水道使用料収入が伸び悩みましたが、20年度の資金残高が見込みより好転していた影響により、21年度の資金残高においても当初見込みと比較して好転する結果となりました。今後も厳しい財政状況下にありますので、引き続き効率的な事業執行に努め、現行の下水道使用料の水準を維持しつつ、安定した下水道事業を継続してまいります。

1 事業計画 ～平成21年度

【1-1 衛生的で快適な生活の確保・維持】

- 札幌市には、約8,100kmの下水道管があり、この全てを平成13年度から24年度までの12年間で調査・点検する計画を立てており、21年度もこの計画に基づき、順調に調査・点検を実施し、総延長に対する調査率は74%となりました。また、過去の調査で見つかった異常か所については優先順位を付け、21年度は計画(800カ所/年)を上回る1,095カ所の修繕を実施しました。
- 処理施設については、適正な運転管理や計画的な修繕の結果、安定した運転を行い目標放流水質を維持し、良好な処理ができました。
- 部分的な修繕で対応できない施設については、計画的に改築を行っており、21年度の下水道管改築率は30.3%となり、目標値に向けて引き続き事業を進めます。

(主な指標) …H19～21は実績値、H23は目標値

管路調査率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H19	H20	H21	H23	
	49%	56%	65%	74%	92%	

定義：調査済み延長(H13～)÷総延長

管路修繕か所数	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H19	H20	H21	H23	
	3,878	4,938	5,875	6,970	7,878	

定義：本管修繕か所数

目標放流水質(BOD)の達成率(目標：70%)	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H19	H20	H21	H23	
	93%	89%	93%	94%	—	

定義：達成測定回数÷全測定回数

下水道管改築率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H19	H20	H21	H23	
	28.8%	29.3%	29.9%	30.3%	32.3%	

定義：改築が必要な老朽管延長に対する達成度

【1-2 暮らしの安全と安心の確保】

- 大雨による浸水被害を防ぐため、雨水がすみやかに流れるように下水道管(雨水拡充管)を整備した結果、都市浸水対策達成率が86.4%となりました。また、より効果的に雨水対策を進めるため、豊平川雨水貯留管整備に着手しました。
- 地震対策として実施している汚泥圧送管の二条化・ループ化の21年度の整備率は65.5%となり、目標値に向けて順調に整備を進めました。

(主な指標) …H19～21は実績値、H23は目標値

都市浸水対策達成率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H19	H20	H21	H23	
	84.9%	85.6%	85.9%	86.4%	86.5%	

定義：雨水排水のための下水道計画に対する整備達成度

汚泥圧送管二条化・ループ化整備率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H19	H20	H21	H23	
	62.0%	63.7%	63.7%	65.5%	66.0%	

定義：計画の圧送管路延長に対する達成度

【1-3 うるおいと安らぎのある街の実現】

- 合流式下水道では、雨の日には下水が処理されずに河川に流れ出ることがありますが、その改善対策として豊平川雨水貯留管整備に着手しました。また、下水中のごみが河川へ流れ出るのを防ぐための吐口スクリーン設置率は36%となり、目標値に向けて順調に整備を進めました。

(主な指標) …H19～21は実績値、H23は目標値

合流式下水道対策率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H19	H20	H21	H23	
	32.9%	32.9%	32.9%	32.9%	32.9%	

定義：河川へ流出する汚れに関して法令基準を守るように対策した区域の割合

スクリーン施設設置率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H19	H20	H21	H23	
	10%	22%	29%	36%	45%	

定義：対策実施済み吐口数÷総吐口数

【1-4 循環型社会の構築と環境負荷の低減】

- 汚泥の処理は、西部スラッジセンターと東部スラッジセンターの2カ所で集中的に処理しています。平成21年10月には東部スラッジセンター2号炉の運転を開始し、汚泥処理の集中化を進めました。
- 発生した下水汚泥は、セメント原料化やコンポスト化などに100%リサイクルし、処理水についても、流雪溝や融雪槽などの雪対策や処理施設の場内用水などに有効利用しました。
- 施設の運転の際には、エネルギー使用量の削減に努めていますが、東部スラッジセンター2号炉の運転を開始したことに伴い、使用量が増加しました。その結果、主要施設におけるエネルギー使用量原単位は20年度とほぼ同程度の値となりました。



東部スラッジセンターの外観

(主な指標) …H19～21は実績値、H23は目標値

下水汚泥リサイクル率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H19	H20	H21	H23	
	100%	100%	100%	100%	100%	

定義：リサイクルされた汚泥量÷総発生量

エネルギー使用原単位の削減率(目標:前年度比1%減)	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H19	H20	H21	H23	
	3%減	1%増	4%減	±0	—	

定義：主要施設における「エネルギー使用量÷高級処理水量等」(二原単位)の前年度比

2 財政計画 ～平成21年度

【2-1 安定した経営のための基盤強化】

- 21年度に実施した主な効率化策
 - ・手稲中継ポンプ場遠方監視化に向けた組織体制の見直し
 - ・定山溪水再生プラザの運転管理委託化
 - ・手当(特殊勤務手当)の見直し
- 21年度職員定数
537人(H20から△14人)
- 主な広報活動
 - ・下水道科学館の年間入館者数 … H21:37,930人(H20:34,342人)
 - ・下水道モニター … 科学館におけるイベントに関するワークショップの実施
 - ・出前講座利用実績 … H21:6団体196人
 - ・パンフレット「そこが知りたい!! わたしたちの下水道」の発行
※H20ワークショップにて作成

(主な指標) …H19～21は実績値、H23は目標値

職員定数(人)	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H19	H20	H21	H23	
	555	551	551	537	523	



【2-2 中期財政見通し】

【H19～21 主要収入支出総括表 ※3年間累計値】

	(単位:億円)		
	プラン	決算	差引
収入			
下水道使用料	637	625	△12
一般会計繰入金(収益・資本)	717	689	△28
企業債の発行	437	366	△71
支出			
維持管理費	510	477	△33
建設事業費	500	437	△63
元利償還金	985	961	△24
累積資金残高(H21末)	49	63	14
企業債未償還残高(H21末)	3,256	3,183	△73

【収入】

- ・不況等の影響による下水道使用料収入の減少
- ・経営効率化策等による維持管理費の縮減等に伴う一般会計繰入金の減少
- ・建設事業費減少に伴う建設企業債発行額減少及び資本費平準化債発行を一部取りやめ

【支出】

- ・経営効率化策等による維持管理費の縮減
- ・低落札率等による建設事業費の減少
- ・公的資金補償金免除繰上償還活用による支払利息の減少

【累積資金残高】

当初見込みと比べて約14億円の好転

【企業債未償還残高】

当初見込みと比べて73億円減少